

# 保育現場における保育者のための ピアノ伴奏研修についての一考察

## Study on Piano Accompaniment Training for Nursery School Teacher in Nursery school

竹 下 則 子  
TAKESHITA, Noriko

キーワード 園内研修 ピアノ伴奏 保育者の資質向上

### 1. はじめに

幼稚園教育要領、保育所保育指針、ならびに認定こども園教育・保育要領は2017年の告示を経て2018年度から実施が予定されている。この改訂での大きな変更点の一つとして挙げられるのは「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の子どもの姿」<sup>1)</sup>が設定されたことである。これはこれまでの5領域を踏まえ、5歳児終了までに育ってほしい姿をより具体的に示したものであるが、その中の1つに「豊かな感性と表現」がある。

それでは「豊かな感性と表現」を育てるためには、どのような環境が必要なのだろうか。そのことを考えるうえで大切なことは、子どもたちが幼児期の終わりまでに接する保育者の声や音楽の質（＝保育者の音楽的資質）が深く関係すると考えられる。

「保育所保育指針」（平成29年告示）によると「保育所における保育士は、児童福祉法第18条の4の規定を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものであり、その職責を遂行するための専門性の向上に絶えず努めなければならない。」<sup>2)</sup>（下線筆者）と記載されており、保育者の資質向上の重要性が指摘されている。子どもたちにとって保育者の存在は第一のお手本であり、保育者の奏でる音楽が子どもたちの感性や表現力に直接影響することから、保育者の音楽的資質を高めることが重要である。そのためには保育者は研修などを通して音楽の専門的知識や技術の修得、維持及び向上に絶えず努める必要がある。

幼稚園や保育園などの保育現場ではピアノやキーボードを使用して伴奏する場合が多い。保育者は長時間かつ多忙な勤務体制の中でピアノ伴奏を練習する時間を確保することは難しいが、ピアノ伴奏のスキルアップを望んでいる保育者は決して少なくないのではないだろうか。それゆえに勤務時間の一部を利用してピアノ伴奏法の研修を行うことは、職員配置が厳しい状況にある保育現場や多忙な保育者にとって有効な手段である。

そこで本研究では、保育園に勤務する保育士を対象にピアノ伴奏法の研修を行い、即戦力となる技術はいかにして習得が可能か研修を通して検証することを目的とする。

## 2. 研究の方法

2-1 調査場所 S 幼稚園

2-2 調査時期 2017年7月下旬～8月中旬（全4回）

2-3 調査対象 研修に参加する常勤保育士7名（男性保育士2名、女性保育士5名）

表1は受講者の担当クラス、勤続年数、音楽的経験や保育中に伴奏をする機会があるか、また受講者が求める研修の内容について調査した結果をまとめたデータである。

表1 受講者の基本データと受講者が求める研修内容について

| 受講者 | 担当クラス | 勤続年数   | 音楽的経験                                        | 保育中にピアノ伴奏をする機会          | 受講者が求める研修内容                                                                                                            |
|-----|-------|--------|----------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A   | 0歳児   | 2年11か月 | 無記載                                          | 0歳児を担当しているため、弾く機会がない    | 1 初見ができない。<br>2 指送りがうまくいかない。<br>3 ペダルの踏み方がわからない。<br>4 ピアノを使って練習したい。                                                    |
| B   | 4歳児   | 3年0か月  | 10歳～12歳まで<br>約2年間<br>バイエルを習っていた              | 週に約4回<br>1日約15分間        | 付点のリズム                                                                                                                 |
| C   | 1歳児   | 0年1か月  | 18歳～19歳まで<br>約1年間<br>短大でバイエルや「世界中の子どもたちが」を練習 | 弾く機会がない                 | 1 正確なリズムで演奏できるようにする。<br>2 付点のリズムが苦手<br>3 ペダルの踏み方                                                                       |
| D   | 4歳児   | 2年3か月  | 6歳～12歳まで<br>約6年間<br>バイエル プルグミュラー<br>ソナチネ     | 週に約0.1回<br>1日約5分間       | 1 楽譜と違うリズムで演奏してしまう。<br>2 童謡で弾けるレパートリーを増やしたい。<br>3 読譜力を身につけたい。<br>4 一定のリズムやテンポで演奏できるようになる。<br>5 子どもが歌いやすくなるように演奏する。     |
| E   | 0歳児   | 3年0か月  | 5歳～10歳まで<br>約5年間<br>エレクトーンを習っていた。            | 0歳児を担当しているため、弾く機会がない    | 1 音符の長さの把握<br>2 付点のリズムがわからない。<br>3 付点のリズムを間違えてしまう。<br>4 ペダルを踏むタイミング                                                    |
| F   | 2歳児   | 2年4か月  | 23歳～25歳まで<br>約2年間<br>短大でバイエルを練習              | 週に約1.2回 約<br>5～10分間     | 1 音やリズムが正確に演奏できているかの確認<br>2 新しい曲への取り組み方について                                                                            |
| G   | 5歳児   | 0年4か月  | 4歳～12歳まで<br>約8年間<br>バイエル                     | 1か月に2～3<br>回程度<br>10分程度 | 1 初見で弾く力をつけたい。<br>2 曲を弾けるようになるまでが遅い。<br>3 左手のオクターブの弾き方4曲想のつけ方<br>4 音が覚えられない。<br>5 難しいリズムをどうしたらよいかわからない<br>6 レガート奏法について |

### 2-4 調査方法

練習時間を確保するために3台のキーボードと3つのヘッドホン、ピアノ1台を用意し、1時間の研修中に受講者2～3人が同時に自主練習をおこなった。受講者の自主練習中に助言者（＝筆者）が約10分×2～3回ずつ巡回した。毎回の研修終了後、受講者が「振り返り用紙」に研修の成果や反省を記入した。

### 2-5 考察の視点

①受講者がピアノ伴奏研修で求めていることについて調査する。

②受講者の音楽的技術の向上及び、問題の軽減や解消について検証する。

### 3. 結果と考察

S 幼稚園の乳幼児クラス（0 歳児から 2 歳児まで）では伴奏をする機会がないが、朝の全体集会において保育士が当番制でピアノ伴奏することになっているため、すべての保育士がピアノ伴奏を練習して、月に数回演奏する必要がある。研修を進めるうちに多くの受講者に読譜やリズムの問題が浮上した。そのためピアノ伴奏で受講者が抱える問題について、特定の問題を取り上げて詳細かつ重点的に考察することとした。

#### 3-1 研修の記録と考察

##### [受講者 A の研修記録と考察]

##### 運指について

受講者 A は指送りやペダルの踏み方、初見で楽譜を読む力をつけたい（表 2 ※1）などを要望していた。第 1 回目の研修では「かもめのすいへいさん」を練習した。（表 2 ※2）。この曲には指使いの指示が楽譜になく、受講者 A は運指ができていないために音の間違いが多かった。その対処として、運指の基本などを説明し、常に正しい指使いで演奏すればミスが減少することを説明した。また指送りや指や手の筋肉の使い方に癖があったので、その癖を取り除く練習をした。その結果、正しい指使いで演奏ができるようになり、手首や腕の動きが改善された。

##### ミスタッチについて

受講者 A は飛躍音や左手の伴奏が細かく移り変わる箇所で弾き間違いが多かった。

ミスタッチの原因を解明し、鍵盤の位置や指の形を覚えるように助言した。また鍵盤の位置を覚えて、弾き間違いをしやすい箇所を克服するために 2 小節前から 5 回ずつ弾きなおした（表 2 ※3）。

その結果、次の週には間違える回数が半分以下に減少し、円滑に弾くことができるようになった（表 2 ※4）。実際の指導場面で受講者が伴奏をミスタッチしそうな時は、瞬時の判断で左手の音を弾きやすい音に変えて弾いたり、演奏を止めずに弾き続けたりするよう助言を行った。

##### 受講者 A のコメント

研修後のアンケートに「楽しく受講できた。研修の日が楽しみだった。楽譜に読み仮名をふらなくても読めるようになってきた。」と回答した。

表 2 受講者Aの学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲            | 学びたいこと、<br>悩んでいること              | 頑張った点                                    | 反省点                                    | 助言及び所見                                                                                              |
|------|----------------|---------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/19 | かもめのすいはいさん（※2） | 初見ができない<br>指送りがうまく<br>いかない（※1）。 | 付点のリズムが分かった。左手の伴奏をグループ化すると演奏しやすいことが分かった。 | 指使いが間違いやすいので同じところを何度も練習する。             | 指使いを遵守することや、指送りの技法を助言した。伴奏の和音の変化を把握して、演奏することを助言した。付点のリズムを正確に弾くように助言した（※3）。                          |
| 7/26 | かもめのすいはいさん     | ペダルの踏み方がわからないので、ピアノを使って練習したい。   | ミスタッチをする箇所や和音の移り変わりを何回も練習する。             | 同じところを何度も間違えてしまう                       | 間違えやすい箇所の①音と指の形の移り変わりをおぼえること②2小節前から数回弾くなど部分練習の必要性を助言した。前回に比べ、停止やミスタッチが減少し、和音の移り変わりがスムーズに移行していた（※4）。 |
| 8/2  | アイスクリームのうた（※5） | 伴奏の音が正しく譜読みできているか               | 片手ずつで何度も練習をおこなった。                        | 両手で演奏すると遅くなるのでメトロノームを使用する。             | スタッカートが多い曲に対するペダルの奏法について助言した（※7）。                                                                   |
| 8/9  | アイスクリームのうた     | スタッカートの曲に対するペダルの入れ方について         | メトロノームに合わせ、片手ずつで何回も練習した。                 | 一定の指使いに定まらず、間違いが多かった。メトロノームに合わせられなかった。 | 難しい箇所ではテンポが遅くなりがちになるため、メトロノームを使って一定のテンポで演奏ができるよう助言した（※6）。                                           |

### 〔受講者Bの研修記録と考察〕

#### 正確なリズムの表現について

受講者Bは付点のリズム、シンコペーションやタイなどのリズムが正確に刻めない傾向にあった（表3※1）。

受講者Bはその箇所を再度弾きなおし、楽譜や鍵盤で問題点を確認するようにした（表3※2）。リズムを正しく弾くために、片手のみで鍵盤の底までゆっくり繰り返して弾くなど、集中的に部分練習をおこなった。その結果、正確なリズムかつ一定のテンポで演奏することが可能になった。

#### スタッカートについて

「アイスクリームのうた」では、スタッカート奏法が適切に表現できていなかった。

スタッカートが表記している部分を受講者と一緒に楽譜で確認し、助言者がスタッカート奏法を演奏後、受講者がこの奏法を何度も練習することにより、正確に演奏することが可能になった。（表3※3）。

#### 受講者Bのコメント

受講者Bは付点のリズムやスタッカートなどの技術的な奏法について悩みを持っていたが、集中的な部分練習により克服することができた。技術的な向上が認められたかの質問に、「苦手な付点のリズムが正しく弾けるようになった。一定のテンポで弾くことができるようになった。子どもたちの前で自信を持って弾くことができた。」と回答した。

表3 受講者Bの学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲                        | 学びたいこと、悩んでいること  | 頑張った点                      | 受講者Bが反省した点              | 助言者の所見                                          |
|------|----------------------------|-----------------|----------------------------|-------------------------|-------------------------------------------------|
| 7/19 | かもめのすいはいさん<br>とんでったバナナスキップ | 付点のリズム<br>(※1)  | 付点のリズムが理解できた。              | 新曲が練習不足だった。             | 付点のリズムが甘くなる傾向にあったので、片手ずつ丁寧に楽譜を見なおした。            |
| 7/26 | アイスクリームのうた                 | 付点のリズムを正確に演奏する。 | 付点のリズム                     | 音が覚えられておらず、ミスが多かった(※4)。 | まだ付点のリズムが甘くなる部分があったので、その箇所を集中的に練習した。            |
| 8/2  | アイスクリームのうた                 | 付点のリズム          | 右手のリズムが理解できた。<br>わかりやすかった。 | 練習不足だった。                | 楽譜通りのリズムで演奏できていないところがあったので、しるしをつけるなどして見直した(※2)。 |
| 8/9  | アイスクリームのうた                 | 後奏のリズム          | 後奏の入り方、いつも間違える場所のリズムと音の確認  | 音を読み間違っていることに気づけていない。   | スタッカート奏法など楽譜通りのリズムで演奏できていないところが助言により改善された(※3)。  |

### 〔受講者Cの研修記録と考察〕

受講者Cは他園から転勤して2カ月であったが、他園でうたの伴奏経験があったので色々な伴奏を弾くことが可能であった。研修ではS幼児園の園歌や宗教のうたなど、初めて弾く曲を中心に練習した。

#### 正しいペダリング

受講者Cからペダルを踏むタイミングがわからないと相談を受けた。

曲によってペダルを踏みかえる長さや速さを変えたり、和音の移り変わりのタイミングで踏みかえたりするなどの助言をした(表4※4)。

しかしながら、ペダルを踏むとペダルに意識が集中するため、ピアノの演奏がおろそかになりミスタッチを繰り返してしまい演奏が困難な状態になった。

そこで右手だけとペダルを踏む、または左手だけとペダルを踏むなどの部分練習を行った。また、ペダルに助言者の足を演奏者の足に重ねてペダルを踏むタイミングを知らせるなどの練習方法で改善を試みた。

「アイスクリームのうた」では、スタッカート奏法を生かすためにペダルを長く踏み続けないよう助言した。

#### 受講者Cのコメント

受講者Cは以前保育園に3年間勤務していたが、その園ではキーボードを使用していたためペダルの使用経験がなかった。今回の研修でペダルの練習を重ねるうちにペダルを踏みながら演奏することが可能になった。技術的な向上が認められたかの質問に「わからないところが分かり、弾きやすくなった。ペダルの踏み方が分かった。」と回答した。

表 4 受講者 C の学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲                                                      | 学びたいこと、悩んでいること                                 | 頑張った点                                       | 受講者の反省点                                    | 助言者の所見                                                   |
|------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 7/19 | 黙想の曲<br>のんのんののさま<br>ののさまに<br>園歌<br>おはようのうた<br>かもめのすいへいさん | 1 譜面でリズムをとる<br>2 付点のリズムが苦手<br>3 ペダルの踏み方        | 「ののさまに」の指番号がわかり、指をスムーズに動かすことができるようになった(*2)。 | より多くの季節の歌を練習する。                            | 指使いに問題があったため、正しい指番号とその決定方法を助言した(*1)。                     |
| 7/26 | アイスクリームのうた                                               | アイスクリームのうたがスムーズに演奏できるようにになったら、ペダルの踏み方について習いたい。 | 自己流になりやすい。細かい助言で勉強になった。                     | 習ったところに気を付けて練習する。                          | 左手のスタッカートが時々重くなるため、奏法について助言した(*3)。                       |
| 8/2  | アイスクリームのうた<br>うみ                                         | ペダルの踏み方                                        | ペダルの踏み方を習うことができ、疑問が解消できた。                   | リズムがぐちゃぐちゃになるときがあるので、メトロノームを使用して練習をする(*5)。 | 常に前奏から本奏に入る音を間違えるので、その箇所の音を数回弾きなおして、音と形をおぼえるように助言した(*6)。 |
| 8/9  | アイスクリームのうた<br>とんぼのめがね                                    | 前回、練習したペダルが自己流になっている                           | ペダルの踏み方が分かった。                               | 自己流にならないように気をつけながら練習を続けていきたい。              | ペダルを長く踏みすぎる箇所を修正した(*4)。                                  |

## 〔受講者 D の研修記録と考察〕

## テンポをキープする

受講者はピアノ伴奏の苦手な箇所や難しい箇所を遅い速度で演奏したり、つまったりしてしまうことが多く、逆に弾きやすいところは速いテンポで弾いてしまうこともあった。ピアノ伴奏のテンポが速くなったり遅くなったりすると歌いづらく、テンポを一定にして伴奏することが重要である。

受講者 D はリズムや拍子にずれが生じ、テンポにムラがあったので子どもたちが歌いやすい一定のリズムで演奏できるように、メトロノームで練習するよう助言した (表 5 \*3)。

## 受講者 D のコメント

メトロノームを使用すると詰まったり遅くなったりする箇所が明白になり、その箇所を集中的に練習することにより一定のテンポで演奏することが可能になった。しかしながら、過度のメトロノームの使用は画一的かつ機械的な演奏になり、抑揚や曲想がつけにくくなるので使いすぎに注意するよう助言した。受講者 D は「読譜力が身について、楽譜どおりに正しく弾けるようになった。今までは子どもの歌声とピアノがずれることが多かったが、受講後は一定の速さで歌声に合わせて弾けるようになった。」と回答した。

表 5 受講者 D の学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲                                | 学びたいこと、悩んでいること                 | 頑張った点                       | 受講者の反省点                     | 助言者の所見                                       |
|------|------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------|
| 7/19 | おばけなんてないさ<br>園歌                    | 読譜力がなく、楽譜と違うリズムで演奏してしまう(*1)。   | 奏法(強弱やリズム)を習い、メリハリがついた(*4)。 | 練習曲が少なかったので、次月の曲を多く練習する。    | 奏法(強弱やレガート)を中心に助言した(*6)。                     |
| 7/26 | アイスクリームのうた<br>おばけなんてないさ<br>うらしまたろう | 童謡で弾けるレパートリーを増やしたい。読譜力を身につけたい。 | 楽譜通りに演奏できていないところが改善できた。     | スタッカート奏法や付点のリズムなど気をつけて練習する。 | スタッカート奏法や付点のリズムなど、楽譜通りに演奏できていないところが改善した(*2)。 |

|     |                                 |                                 |                                       |                                                         |                                                                                     |
|-----|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 8/2 | まつぼっくり<br>とんぼのめがね<br>アイスクリームのうた | 一定のリズムで演奏できるようにする。              | ペダルで弾くコツを学んだのでより上手に演奏できるようにになりたい(*7)。 | メトロノームに合わせて演奏すると、リズムがずれていることに気づいたので、一定のテンポで演奏ができるようにする。 | テンポにムラがあったため、「とんぼのめがね」をメトロノーム＝104で練習するよう助言した(*3)。                                   |
| 8/9 | きのこ<br>アイスクリームのうた<br>おばけなんてないさ  | 一定のテンポで演奏する。子どもが歌いやすくなるように演奏する。 | アイスクリームのうたの曲は楽譜どおりに演奏できるようになってきた。     | きのこが両手で上手に演奏できていないので、さらなる練習が必要である。                      | きのこの譜読みと曲想付けをおこなった。きのこの後奏部分が難しかったため、部分練習を行った。その箇所の音の形を覚えて、ミスタッチがなくなるように何度も練習した(*5)。 |

### 【受講者Eの研修記録と考察】

#### 音を間違えずに読む

受講者Eは音譜や休符の長さの間違いや臨時記号のついた音譜の読み間違いがしばしば見受けられた。

S 幼稚園で使用している楽譜にはアレンジが難しいものが多く、すべての受講者から「音を間違えていないか不安で自信を持って伴奏をすることができないので音の間違いをチェックしてほしい。」と依頼があった。特に左手の伴奏が複雑な時に、伴奏部分の読譜とミスタッチが多かった。受講者Eがその時だけ違う音を弾いたのか、音を常に間違えて弾くのかを助言者が確認するため、受講者Eにミスタッチをした箇所を再度弾きなおすよう指示をした。受講者Eが音を間違えて覚えている場合は助言者が正確な音を楽譜と鍵盤で修正するようにした。

#### 受講者Eのコメント

受講者Eは「わかりやすく理解できた。臨時記号のついた音符の読み間違いや、休符の長さがわかった」と回答した。

表 6 受講者Eの学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲               | 学びたいこと、悩んでいること  | 頑張った点                        | 受講者の反省点                                                          | 助言者の所見                                                                                     |
|------|-------------------|-----------------|------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/19 | アイスクリームのうた        | 音符の長さの把握        | リズムの違いが分かった。指導がわかりやすかった。     | #や♭の位置や音を読み間違えていた。                                               | 付点のリズムが〆になりやすく、音の間違いも多かった。片手ずつ丁寧に楽譜をみなおした(*1)。                                             |
| 7/26 | アイスクリームのうた        | 付点のリズムがわからない。   | スタックカート奏法についてリズムの取り方が間違っている。 | もう1曲演奏する予定だったが、練習することができなかった。次回は準備したい。                           | スタックカートのタッチ、音の長さを再確認した。付点のリズムがあまくなる箇所に気をつけるよう助言した(*5)。                                     |
| 8/2  | アイスクリームのうたとんぼのめがね | 付点のリズムを間違えてしまう。 | できていない付点のリズムがわかった。           | 音を弾くタイミングが早く入ってしまった。メトロノームを使用してメロディーが早くなったり遅くなったりしないように練習する(*3)。 | まだ付点のリズムを正確に表現できない箇所があったが、前回に比べてその割合も減少し、正確に演奏できるようになった(*2)。                               |
| 8/9  | アイスクリームのうたとんぼのめがね | ペダルを踏むタイミング     | 止まらずに演奏することを心がけた。            | ペダルに集中すると、ミスタッチをしてしまう。                                           | ペダルを踏むとピアノ演奏に支障をきたすため、右手とペダルのみで練習をして、ペダルに助言者の足を演奏者の足に重ねて、ペダルを踏むタイミングを知らせる。などの練習方法を試みた(*4)。 |

### 〔受講者Fの研修記録と考察〕

#### ピアノのタッチについて

受講者Fは男性保育士で成人してからピアノの練習を始めた。

「おかえりのうた」では打鍵が弱く感じられた。

遅い速度で鍵盤の底まで打鍵する練習を毎日5分間ずつおこなうように助言した（表7※3）。

#### 受講者Fのコメント

「おかえりのうた」ではミスタッチが減り、鍵盤を底まで打鍵して演奏することができるようになった（表7※6）。技術的な向上が認められたかの質問に、「譜面の中でわからないところや、間違っているところを教えてもらえてうれしい。今までより左手が弾きやすくなった。リズムの取り方がわかった」と回答した。

表7 受講者Fの学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲                     | 学びたいこと<br>悩んでいること     | 頑張った点             | 受講者の反省点            | 助言者の所見                                                                                                                                        |
|------|-------------------------|-----------------------|-------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/19 | かもめのすいはいさん(※1)          | 音符やリズムについて            | 片手練習              | 他の曲も教えてもらえばよかったと思う | 右手の指使いを見直した。両手で演奏すると左手の難しい箇所で止まったり、ミスが多かったりしたので片手ずつで音の進行をおぼえるようにした(※2)。                                                                       |
| 7/26 | おかえりのうた                 | 音やリズムが正確に演奏できているかの確認。 | 音をしっかりと弾くように練習した。 | 練習量を増やす。           | 指の筋肉を強化するために遅い速度で鍵盤の底まで押さえる練習を毎日5分間ずつするよう助言した(※3)。メトロノームをかけてテンポを一定にする(※4)。                                                                    |
| 8/2  | アイスクリームのうた<br>園歌おかえりのうた | 新しい曲への取り組み方について。      | 新しい曲の譜読みを頑張った。    | 新しい曲が練習できていなかった。   | 「アイスクリームのうた」は譜読みの初期段階であった。片手ずつで練習した(※5)。前回、指の筋肉トレーニングをおこない、鍵盤の底までゆっくり押す練習を指示した。その結果タッチがしっかりして演奏できるようになった。音のミスが減り離れた音もミスタッチなしに演奏できるようになった(※6)。 |
| 8/9  | アイスクリームのうた              | 音やリズムが正確に演奏できているかの確認。 | 片手ずつで譜読みをした。      | 練習量を増やす。           | 片手ずつで譜読みをする練習をした。                                                                                                                             |

### 〔受講者Gの研修記録と考察〕

受講者Gは今年4月より赴任した男性保育士である。

#### 指、手の甲や手首の筋肉の使い方

受講者Gから手が大きいためにキーボードの鍵盤が細くて手にあわず、オクターブ奏法が弾きにくいと相談があった。

受講者Gの指や手の甲の筋肉が硬直する傾向があるため、演奏時に指や手の甲を脱力して、筋力をやわらかく使い、必要以上の力を加えないように助言した。また、鍵盤上で指が最適な位置をとらえておらず、手を鍵盤の手前側と奥側に必要以上に移動させるくせのためにミスタッチを招いていたため、最適な位置で鍵盤を打鍵するよう助言した。

指を広げるとオクターブが演奏しやすくなることを助言した（表8※3）。また黒鍵と白鍵間を演奏する時に筋肉を固くし、手首をひねって弾く癖があったため、その癖を除去する練習をおこなった（表8※4）。

#### 受講者Gの感想と成果

受講者Gは鍵盤上で指が最適な位置をとらえられるようになるとミスタッチが減少した。指や手の甲、手首の筋肉を柔らかく使うことで、演奏がなめらかになった。研修後の質問紙にGは次のように回答した。「自分では気づかない演奏のクセがわかり、なおすことができた。歌詞の語頭部分の音をピアノで少し強調して演奏する奏法や楽譜の覚え方を習い、わからなかったところがわかりやすく理解できた。」上記のことから第三者の客観的な助言により、今まで意識をしていなかった点に気づくことができ、今回の研修がより良い音楽表現を生み出すことに寄与することができたと考えられる。

表8 受講者Gの学習内容と助言者の所見

| 研修日  | 演奏曲                                                        | 学びたいこと、悩んでいること                     | 頑張った点                                                                                 | 受講者の反省点                        | 助言者の所見                                                                                                                                                                                     |
|------|------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/19 | 黙想のうたのの<br>のののののの<br>のののののの<br>おはようのうた<br>園歌<br>切手のないおくりもの | 初見で弾く力をつけたい<br>曲を弾けるようになるまでが遅い(*1) | 練習のコツを習うことができた。                                                                       | 何を学びたいかを明確にしていなかった。目標をもって取り組む。 | 片手ずつで楽譜を読む。規則を探してグループ化して覚える。難しい箇所の音形を集中的におぼえる。サクソスを演奏しているため、ト音記号は速く読むことができるが、読み慣れていないへ音記号の譜読みが遅いので左手の譜読みに時間をかけるなどの助言をおこなった。間違えた部分で演奏を止めて考える傾向があったため、歌の伴奏に必要な要素である間違えても止まらず弾き続けるよう助言した(*2)。 |
| 7/26 | アイスクリームのうた<br>園歌<br>切手のないおくりもの                             | 左手のオクターブの弾き方<br>曲想のつけ方             | スタッカートと弾き方、オクターブ弾きの練習                                                                 | 左手の開きが足りない。楽譜の読み違いや見落としがあった。   | オクターブ奏法時における指の筋肉の使い方について助言した(*3)。<br>黒鍵と白鍵間の奏法における指送りの癖を除去するよう助言した(*4)。<br>オクターブ奏法時における指の筋肉の使い方について助言した。抑揚のつけ方(音の緊張と弛緩、強弱など)を助言した(*5)。                                                     |
| 8/2  | 切手のないおくりもの<br>おかえりのうた                                      | 音が覚えられない。<br>難しいリズムをどうしたらよいかわからない。 | はやい速度で弾きこむ良さが分かった。                                                                    | 集中力が足りなかった。                    | もともと譜読みが遅いことが悩みであったので①すぐに暗譜をせずに楽譜を読む機会を増やす。<br>②片手ずつ、はやい速度で何回も楽譜を見ながら弾くことを助言した(*6)。                                                                                                        |
| 8/9  | 切手のないおくりもの<br>とんぼのめがね                                      | レガート奏法について                         | なめらかな演奏ができるようになった。<br>歌詞の語頭部分に軽くアクセントをつけてメリハリをつける。歌詞の語尾部分にアクセントや重さが加わらないように注意をして演奏する。 | アーティキュレーションがぐちゃぐちゃになってしまう。     | 「切手のないおくりもの」の曲はミスタッチが前回よりも減少した。間違えても止まらず演奏することが可能になった。「とんぼのめがね」は一音一音をしっかりと弾きすぎたので、レガート奏法を使用して演奏するよう助言した(*7)。徐々になめらかな演奏ができるようになった。                                                          |

### 3-2 複数の受講者に見られる問題点の考察

これまで受講者一人ひとりが抱える問題にスポットをあてて重点的に考察してきたが、受講者にとってその問題が個人に特有のものではなく、受講者全員に共通した問題でもあった。そのため他の受講者の結果をあわせて比較検討し、再考察を行う。

#### 読譜力について

受講者A、B、D、E、F、Gは音譜を読み間違えるために、楽譜の記載と違う音やリズムで演奏するなどの問題があった(表2※1)(表3※4)(表5※1)(表6※1)(表7※5)(表8※5)。特にへ音記号譜(左手)の読み間違いが多かった。

受講者Fは音の進行を片手ずつ覚えるようにし、読み間違いの箇所は楽譜にしるしをつけて演奏

するようにした(表7※5)。また受講者Gは「初見で弾く力をつけたい。」「曲を弾けるようになるまでが遅い。」などの悩みを訴えていた(表8※1)。譜読みが遅い原因としては読み慣れていないへ音記号の譜読みの経験が少ないためであった。それを克服する手段として①へ音記号の譜読みに時間をかける。②暗譜をすると読譜力がつかないので、すぐに暗譜をせずに片手ずつ速い速度で何回も楽譜を見ながら弾く。③コード進行の規則などを探して覚える。④難しい箇所の音形を集中的に弾いて記憶するなどの助言を行った(表8※2及び6)。

#### 運指について

前述した受講者A以外に受講者CやFも指使いに問題があったため、運指の基本を助言した。(表4※1)(表7※2) 運指が理解できると、指をスムーズに動かすことができるようになった(表4※2)。

#### ミスタッチについて

受講者CとDは前奏から本奏に入る時に音を間違えるので、その箇所の音を数回弾きなおして音形をおぼえた(表4※6)、(表5※5)。受講者Gは間違える部分で演奏の流れを止めてしまう傾向があった。歌の伴奏で必要な要素である間違えても止まらず弾き続けることが重要であると助言した(表8※2)。

練習の結果、ミスタッチが減少し、間違えても止まらず演奏することが可能になった。

「まつぱっくり」や「かもめのすいへいさん」「きのこ」などの曲では、飛躍音や左手が複雑な動きの箇所でも弾き間違いをしやすかった。

そこで、ミスタッチをする箇所について、注意深く鍵盤を打鍵して形を覚える。また、その箇所を数回弾きなおして位置とタイミングを覚えた。

その結果、ミスタッチをする回数が減少し、比較的円滑に弾くことができるようになった。

#### リズムの正確な表現について

D、Fは音符や休符の長さに問題があった(表5※2)(表7※1)。

また受講者B、C、Gは付点のリズム、シンコペーションやタイなどの複雑なリズムが正確に刻めない傾向にあった。その箇所を再度弾きなおし正確に弾くことが困難であると助言者が判断した場合は受講者と一緒に楽譜と鍵盤で確認した。正確なリズムで弾くために、片手のみで鍵盤の底までゆっくり、部分的に数回繰り返して弾く練習をした。

#### スタッカートについて

「アイスクリームのうた」では楽譜上にスタッカートで弾くよう指示があるが、受講者DやEは楽譜通りのスタッカート奏法で演奏できておらず(表5※2)(表6※5)、受講者Cは左手のスタッカート奏法(1音符ずつ短く切って演奏する奏法)で再現できていなかった。(表3※3)。この問題の対処として、助言者がスタッカート奏法を範奏し、受講者が何度か練習した結果スタッカートでの演奏が可能になった。受講者が楽譜上でもスタッカートが表記されている部分を認識するようにした。

#### テンポのキープについて

受講者D以外にA、C、E、Fもテンポが速くなったり遅くなったりする箇所があったため、一定のテンポで演奏できるようにメトロノームを使用した(表2※6)(表4※5)(表6※3)(表7※4)。その結果、ある程度、一定のテンポで演奏することが可能になった。

#### アーティキュレーションについて

受講者DやGは伴奏曲を無難に弾きこなしていたが、抑揚のない演奏であった(表5※4)(表

8 ※5)。そこで抑揚をつけるために①音の緊張と弛緩や強弱などを使用して表現する。②歌詞中にある単語の語頭部分の音に軽くアクセントをつけてメリハリをつけながら伴奏する。③歌詞中にある単語の語尾部分の音にアクセントや重さが加わらないように注意をして伴奏する、などを助言した。また音符を一音一音しっかり弾きすぎていたため、レガート奏法（柔らかい音でなめらかに弾く）を使用して演奏するよう助言した（表5 ※6）（表8 ※8）。その結果、アーティキュレーションを意識しながら徐々になめらかな演奏ができるようになった。

#### 正しいペダリングについて

受講者C以外にA、D、Eもペダルの練習をした。（表2 ※7）（表5 ※7）（表6 ※4）。受講者からペダルの踏み方の質問が多く寄せられた。ペダルの奏法について今までに習ったことのある受講生は1人もおらず、その理由として、保育者養成機関において鍵盤上での練習に多くの時間を費やすため、ペダルを使用した練習まで時間が及ばなかったと7人中6人の受講者が回答した。和音（コード）の変化にともない、ペダルを踏みかえることなどを助言した結果、徐々に音を濁らさずに弾くことが可能になった。

### 3-3 研修中に発生した問題点

#### 電子ピアノ（キーボード）使用の利点と問題点

いくつかの保育現場では保育室に電子ピアノを設置している。電子ピアノの利点としては子どもと対面する位置に設置し、子どもの顔を見ながら演奏できることである。S幼稚園の3才児、4才児及び5才児の各教室には88鍵ある電子ピアノが設置されている。今回の研修ではピアノ1台と電子ピアノ3台を使用した。普段は電子ピアノを使用するために電子ピアノで練習を行いたいという意見が多かった。しかしながら、遊戯室にて当番制でピアノによる伴奏をする機会があるため、ピアノやピアノのペダルを使用して練習をおこないたいという意見もあった。今回の研修で使用した電子ピアノは鍵盤数が61鍵しかなく、オクターブ奏法や飛躍音など鍵盤を広く使用する伴奏曲では鍵盤数に制限があるため支障があった。設置の条件が許すなら、ピアノと同じく88鍵ある電子ピアノを使用する方がアレンジの幅が広がるため、多様な伴奏が可能になる。

電子ピアノはヘッドホンを装着すれば、外部に影響を与えずに集団でピアノを練習することができるという利点がある。また電子ピアノには音量調節機能やメトロノーム機能を内蔵しており、音量やメトロノームの速度を調節して練習することができた。

一方で電子ピアノの使用について受講者に質問したところ①電子ピアノの鍵盤が細くて軽く、ピアノとタッチが違うので弾きにくい。②ピアノのペダルに比べて数や構造が違うため踏みづらい。などの問題を指摘した。

### 3-4 教材から見いだされる問題点

#### 受講生の演奏技術と楽曲に求められる演奏技術の差が生みだす問題点

楽譜はS幼稚園にて配布された教材を使用し、できるだけ楽譜を忠実に弾くことが園の基本方針であった。今回の研修では受講者が任意に選曲し、練習することとした。

表9は、S幼稚園で歌われている歌をいくつかのカテゴリーに分類して掲載した。

「黙想のうた」「S園の園歌」「ののさまの」「のんののののさま」「おはようのうた」は朝のあいさつのうたとして園児が歌唱する曲である。園歌は左手によるオクターブの順次進行で伴奏する箇所があり、難易度の高い曲であった。楽譜通りに演奏できない受講者CとGはオクターブでの演奏

を単音で処理して演奏していた。

「アイスクリームのうた」は伴奏が難しいため、全員がこの曲を練習曲に選んだ。この曲は付点のリズムが多く、受講者A、B、C、E、Fはリズムを正確に表現することができなかった。楽譜は簡単なアレンジの伴奏譜から複雑で難しいものまで混在していた。曲によってはアレンジが難しくすぎて弾きこなすには無理のある受講者も存在した。受講者は楽譜を忠実に弾く努力をしていたが伴奏が止まったり、ミスタッチをしたりしていた。それでは子どもたちが歌いにくいだけでなく、歌唱行動の妨げになってしまう。受講者のピアノ演奏レベルにあわせて、難しい箇所を簡単にアレンジしたり、時には簡単なアレンジの楽譜を使用したりすることが必要である。

表 9 S 幼稚園で歌われているうたのタイトル

| うたの分類      | うたのタイトル                                   |
|------------|-------------------------------------------|
| 夏を題材とした歌   | アイスクリームのうた かもめのすいはいさん うみ とんでったバナナ うらしまたろう |
| 仏教系の歌      | ののさまに のんのんのののさま                           |
| 生活の歌       | おはようのうた おかえりのうた さよならのうた 黙想のうた             |
| 園歌         | S 園の園歌                                    |
| 秋を題材とした歌   | きのこ とんぼのめがね 赤とんぼ まつぼっくり                   |
| 1年を通して歌える歌 | 切手のないおくりもの スキップ                           |

### 3-5 研修における成果の検証

各受講者の考察と結果で述べたとおり、すべての受講者が技術的な向上が認められたと回答した。また、この研修で受講者の精神面をサポートすることができたかの質問に肯定的な回答が得られたことから受講者の技術面だけではなく精神面においてもプラスの効果があったと考えられる。演奏が徐々に上達してくると、ピアノ伴奏に対する不安や悩みが解消され、自信を持って演奏することができるようになった。今回の研修では受講者一人ひとりの個性や性格、曲を習得する速度、能力や経験値が異なるため、受講者のレベルに合わせて課題に取り組めるように配慮する必要があった。受講者の体調や精神面、園の繁忙期等によって、受講者のピアノ伴奏に対する集中力や練習量も変化した。受講者の諸条件を鑑み、臨機応変に音楽研修環境を設定する必要があると考えられる。

保育現場では短時間で効率的に譜読みをして、子どもたちの前ですぐに伴奏する力や臨機応変に楽譜をアレンジして演奏する力などの即時対応力が必要であった。ピアノ演奏技術の向上や実力の定着はもちろん重要であるが、より重要なことはたとえ技術力が乏しくとも、子どもたちの様子をみながら共にうたを楽しみ、コミュニケーションをとりながら状況に応じて臨機応変に伴奏をすることであると考えられる。

## 4. まとめと今後の課題

矢藤（2016）は「保育者の研修制度」の中で、「保育者、保育施設、自治体、関係団体、養成校、関係機関、利用者等、様々な関係者同士が～中略～内外でのつながりを持つことが、相互に補い合い、高め合うことにつながりやすい。」とし、教員養成校と保育現場の協働が研修の有効な手段の一つであることを示唆している。しかしながら「大学・短期大学が行う研修への参加が相対的に若干少ない。大学・短期大学が幼児教育・保育の現場と連携・協働して相互に質の向上を進めることが求められている」<sup>3)</sup>と指摘していることから、教員養成校とその教員は積極的に保育現場の研修に関わっていく必要

がある。

ピアノ伴奏研修は受講者のピアノ伴奏の技術や意欲が向上するきっかけとなり、また受講者の当面の悩みを解消し、演奏のプレッシャーや不安感を取り除くなど、受講者の精神的な面をサポートする役割を担うことができたと考えている。しかしながら、ピアノ伴奏研修が時と場合によって受講者のストレスや負担になる可能もあることから、受講者の要求やピアノ技術のレベルに配慮して研修を進めていく必要がある。一方で保育施設による保育内容の違いからピアノ伴奏研修を必要としない保育士も存在するであろう。そのような状況の保育士も視野に入れ、ピアノ伴奏研修の有効性や意義について調査していく必要があると考えている。今回の研修は受講者の勤務が終了した夕方に行われたため、受講者が子どもの前で伴奏している場面を筆者が観察することはできなかった。研修の成果は子どもたちの前で実践することによりはじめて効果が実証される。今後は子どもたちの前で演奏成果についても検証していく必要がある。

今回の研修で得た成果を教員養成校で生かし、学生の音楽的資質向上を目的としてピアノ伴奏法の授業に反映していきたい。また保育の現場における音楽環境の研究を今後も継続し、保育者の援助に寄与することができるように、さらに研究内容を研鑽していきたい。

#### [引用文献]

- 1) 文部科学省幼稚園教育要領（平成29年告示） pp. 5-8
- 2) 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年告示） p. 4
- 3) 矢藤誠慈朗（2016）「保育者の研修制度」『保育学講座 4 保育者を生きる専門性と養成』第 8 章 pp. 177-185 日本保育学会編東京大学出版社

#### [参考文献]

- 日本保育学会編（2016）『保育学講座 5 保育を支えるネットワーク 支援と連携』東京大学出版社
- 白石崇人（2015）「保育者の専門性とは何か」株式会社 社会評論社
- 金子智栄子（2002）「共に育ち合う保育者をめざして」ナカニシヤ出版
- 金田利子 諏訪きぬ 土方弘子（2000）「『保育の質』の探求」ミネルヴァ書房
- 浅井春夫 渡邊博博（2009）「保育の質と保育内容 保育者の専門性とは何か」新日本出版社
- 木原久美子（2003）「大学の研究者が保育者と協働することの意義」『帝京大学文学部紀要教育学』第28号
- 田川隆博（2016）「『学び続ける教員』についての論点 一二つの中教審答申の検討から一」『名古屋文理大学紀要』第17号 pp. 55-58
- 後藤紀子（2017）「『保育表現技術』に添えるピアノ指導法の予備的研究—保育者養成校における音楽指導の在り方の提案に向けて」『和光大学現代人間学部紀要』第10号 p. 81
- 小澤和恵（2009）「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察—「生活の歌」と「季節の歌」について—」『埼玉純真短期大学研究論文集』2 p. 43
- 夏目佳子（2010）「ピアノ演奏における楽譜と鍵盤間の視線移動について初級者に対する実験的事例研究」『音楽教育研究』第40巻1号
- 夏目佳子（2010）「ピアノ演奏時におけるミスタッチ後の処理の研究—レッスン時における〈弾き直し〉の事例を通して—」『名古屋短期大学研究紀要』(48) pp. 181-189
- 赤井裕美（2016）「ピアノを中心とした「保育音楽力」の在り方と養成校の音楽授業に関する考察」『湘北短期大学保育学科』
- 平井李枝（2016）「教員養成課程学生に対するピアノ「弾き歌い」指導法の研究」『宇都宮大学教育学部教育実践紀要』第2号

- 根本真理子 (1978) 「ピアノ奏法におけるペダルの技法基本的ペダル技法の解釈について」『静岡大学教育学部研究報告人文・社会科学篇』28 pp. 35-47
- 大山佐知子 (2005) 「ピアノ基礎技法 ～ペダルの使い方～」『中国学園紀要』4 中国学園大学 pp. 53-59
- 紙屋信義 後藤みゆき (2009) 「ピアノによる子どもの歌伴奏の効果 ―アレンジによる伴奏法を考える―」『四天王寺大学紀要』48
- 奥 千恵子 (2008) 「保育者養成と演奏技法 ―保育指導としてのピアノ奏法―」『東京未来大学研究紀要』第1号 pp. 67-75
- 新海 節 (2008) 「保育士及び幼稚園教諭養成校のピアノ指導における一私見」『帝京学園短期大学研究紀要』第15号 p. 18
- 新海 節 (2012) 「保育者養成校におけるピアノ教育」『藤女子大学紀要』第49号第II部 pp. 147-153
- 三好優美子 (2012) 「子どもの歌のピアノ演奏における運指指導の取り組み」『東京女子体育大学紀要』47
- 竹内アンナ (2008) 「小学校 幼稚園教員養成のためのピアノ指導法 (2)―学生によく見られる表現の誤り―」『千葉敬愛短期大学紀要』第30号 pp. 39-51
- 村木洋子 (2013) 「歌唱共通教材(小学音楽)旋律の運指について―ピアノ入門者のための―」『山梨県立大学人間福祉学部紀要』Vol. 8
- 深井尚子 (2005) 「ピアノ演奏技術の向上と音楽表現の可能性」『北海道教育大学紀要人文科学・社会科学編』56 p. 1
- 後藤紀子 (2007) 「保育者養成校におけるピアノ指導研究」『日本保育学会第60回大会発表論文集』pp. 824-825
- 澤田まゆみ (2013) 「保育士・幼稚園教諭に求められるピアノ・スキルとは何か」『新島学園短期大学紀要』第33号 pp. 57-66
- 小倉隆一郎 (2007) 「MusicLaboratory を用いた初心者へのピアノ指導―読譜力の向上に着目して―」『文教大学教育学部紀要』第41集 pp. 73-81
- 香曾我部琢 (2008) 「保育者に求められる音楽的な資質に関する研究」『明星大学通信制大学院研究紀要―教育学研究―』第6号 pp. 41-49
- 津山美紀 (2009) 「ピアノ演奏における音楽表現力の育成に関する一考察―基礎的な楽典学習の必要性和有効性について―」『九州女子短期大学紀要』第46巻1号 pp. 65-77
- 中村千昌 (2003) 「養成校における音楽教育の現状について―養成校と保育現場のアンケート資料を通して―」『聖和大学論集 (教育学系)』第31号 pp. 93-103
- 長尾智絵 (2008) 「採用試験要項の分析から見た本学の学生に要求されるピアノ演奏能力」『奈良保育学院研究紀要』第13号 pp. 1-9
- 羽根田真弓 (2004) 「幼稚園教諭に求められる音楽的資質 ―保育現場と学生の比較調査をもとに―」『鳥取短期大学研究紀要』第49号 pp. 17-30
- 坂井康子他 (2008) 「保育士 幼稚園 小学校教諭養成課程におけるピアノ指導」『甲南女子大学研究紀要』第45号 人間科学編 p. 22
- 大地宏子 (2008) 「保育現場で求められるピアノ音楽技能とは何か?」『鶴見大学紀要』第45号第3部 p. 17
- 佐藤敦子 (2005) 「保育者養成校におけるピアノ教育の実態と幼稚園・保育所の実習時及び採用試験時におけるピアノの実態と評価基準」『福島学院大学研究紀要』第37集 p. 135